NPO
中帰連平和記念館
CHUKIREN HEIWAKINENKAN

# 2019年度　総 会 報　告

今年は春から「コロナ」の影響で理事会も開けず総会の開催も困難でしたが、例年より遅れて6月27日に総会を開きました。理事ら正会員19名のうち11名が出席（一般会員は「賛助会員」）し、松村理事長の挨拶のあと議事に入りました。

最初に芹沢事務局長と宮本司書から19年度の活動報告（別紙）がありました。昨年は4回の理事会と「中帰連に学ぶ会」（メール通知）を3回開きました。また来館者は一般市民や市民団体の他に、研究者の方も何人か来館しました。神奈川県高教組の皆さんや徳島大学の饗場先生が学生6人を同行し来館しました。

ボランティアの皆さんによる新井利男さん（故人）の「中帰連関連資料」の整理が一段落つき感謝しております。また、「供述書を読む会」は星野理事が中心になり続けております。

中帰連千葉支部が匝瑳市の妙福寺に建立した「中帰連碑（謝罪碑）」の前に毎年5月5日に集い、中帰連を偲び平和への思いを新たにする『観藤会』にも参加（今年は中止）しました。

過日来館した『ハンギョレ新聞』元編集長の金孝淳さんが、韓国で初めて「中帰連」を紹介する本を出版し寄贈頂きました。

昨年度の大きなイベントとしては記念館の担当で、10 月 26、27 日に埼玉県内の国立女性教育会館で「平和のための博物館ネットワーク」の全国交流会を開催し、全国から46名が参加下さり13団体から発表がありました。二日目の午後には希望者による「フィールドワーク」として、丸木美術館と私たちの記念館に35名が来館下さいました。

承認事項として会計担当の宮本司書から会計報告（別紙）があり、監事の星野泰久と岩淵とも子から「管理良好」の監査報告があり承認されました。昨年度は単年度会計で初めて赤字決算になりましたが、昨年は前記の全国交流会の開催と、皆様にお送りした『ブックレット』5000部の作成などの臨時出費が起因しています。

【「全国交流会」記念写真 2019.10.26 ～ 27】

目　　次

・2020年総会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
・「記念館資料室から」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・2
・記念館の経緯と近況について ・・・・・・・・3
・千葉ケーブルＴＶ来館 ・・・・・・・・・・・・・・4
・新たに理事、監事が就任 ・・・・・・・・・・・・4
・「ねりま大泉町9条の会」など来館・・・・5
・「一枚の写真」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
・「山住文庫」について・・・・・・・・・・・・・・・・5
・「方正友好交流の会」から合本寄贈・・・・5
・橋本勝の風刺マンガ ・・・・・・・・・・・・・・・・6
・記念館「蔵書紹介」 ・・・・・・・・・・・・・・・・6

検討事項に入り役員の変更として岩淵とも子さんが監事を辞任し理事に就任しました。その後任として中川寿子さんが監事に就任し、また石川求さんと山本潤子さんの新理事就任が承認されました、

審議事項では記念館の資料公開基準や館内展示ついて検討（継続審議）しました。中帰連ご遺族からの遺品引取りの要請についても検討しました。理事会のオンライン会議導入の是非も検討（継続審議）しました。

今年は 3 年に 1 回世界各地で開催する「国際平和博物館会議」の年で、10 月に京都と広島で開催しで記念館も参加予定でした。

しかし、コロナのためテレワークとなり、発表内容を英語の「パワーポイント」を本部に提出することになり、細川理事に一任しました。また将来「認定ＮＰＯ」に移行できるかを検討することや、来年「15 周年集会」を開く方向で進めるなどが承認されました。

「総会通知が来なかった」と思う方もいらっしゃるかと思います。NPO は定款で賛助会員と正会員により構成され、殆どの皆様には原則「賛助会員」にお願いしております。

総会は正会員で構成され、正会員になるには書面で希望すれば可能です。但し全国組織なので「総会に出られない」のは困るので、ご配慮お願いできれば有り難く思います。

## 連載　記念館資料室から

### 第22回　他団体との平和への取り組みから

石田隆至（「中帰連に学ぶ会」事務局）

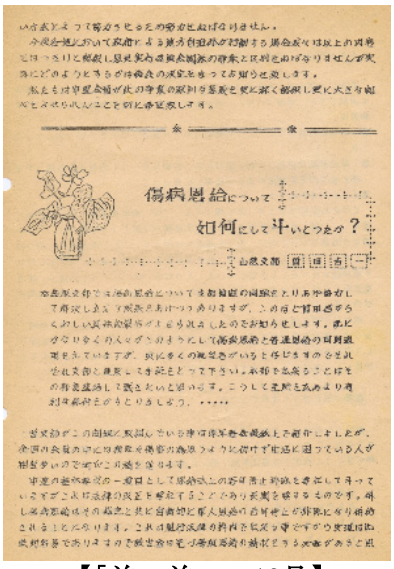
『前へ前へ』第12号は、1958年7月16日発行です。

ページ数がやや減り、内容面でも前号以上に「資料」が多く掲載されています。「常任理事会では会員間に学習の必要を認めるとともに、会としての主張ではなく、しばらくは資料としてありのままを学習してもらうよう要望しています」という考えからです。「学習」が必要とされたのは、日中関係が「緊急事態」に面しているという判断からです。以前も確認した通り、「第4次貿易協定の事実上の拒否」「長崎における中国国旗侮辱事件」によって、友好外交が危機に瀕していました。

掲載された「資料」を通し、会報の編者は何を伝えようとしたのでしょうか。

①米ソ冷戦の過熱に対する世界的な反戦運動を担っていた日本平和委員会の「日本平和大会宣言」は、核兵器による「力の政策」を危惧し、強く非難しています。そこでは、米国による東アジア再編が進むなか「日本における核武装の政策はすでに着々と進行しています」という認識まで示されています。＜戦後日本は平和だった＞という現在の戦後観との落差を感じさせます。

②中帰連会員の多くが加入し、支部活動を担った日中友好協会の「第八回全国大会運動方針（第二次草案）」 は長文が掲載されています。上述の「緊急事態」に対して、中国側は「国家の尊厳を守るための抗戦」として、「対日貿易の一切の活動を停止」「漁業協定の延長にかんする交渉を拒否」しました。この対応について論評されています。「中国側のこれらのきびしい処置は、いうまでもなく日本の人民にたいする反感や敵意の表明ではなく、中国の主権を侮り中国を敵視する政策にたいする批判としておこなわれたものである。一部では、中国側の強硬な処置をもって、これまで中国側のとってきたおだやかな政策が根本的に変わったように誤解している。中国が求めているものは中国を敵視する日本政府の政策を改めよ、という一点につきている。そして、この敵視政策を改めることなしには、一歩一歩と両国の国交を正常化することはできないのである」。2020年の中米関係、




【「前へ前へ」12号】

日中関係に通じる状況がありますが、現在の捉え方に欠落している観点がここには見出せます。

③「在北京、西園寺公一氏からの近着の手紙」は、当時中国在住で「民間外交」を担っていた同氏の日本観が披瀝されています。「長崎事件の適切な処理、第四次貿易協定の完全実行は勿論大切です。しかしこの際真剣に考えねばならないことは、片手にあいくち、片手にそろばんという日本の政策ないし態度の問題です。この故にこそ中国側では潜在帝国主義を指摘せざるを得ないのです。こういう本質的問題を友好運動の中へ浸透させていくことが 重要かと思います。政府と人民とを区別して考える中国側の考え方に甘えて、いつまでたっても、政府の現在のやり方に反発も抵抗もせずに、俺は貿易を、あるいは文化交流をやるんだから、政治には触れないんだ、ということでは『あいくち、そろばん主義』を裏書する結果になります」。中帰連の平和運動がどこに焦点を定めようとしていたのか、なぜ政府や社会からの反発が小さくなかったのかを物語っているといえます。

他にも、「国交回復署名カンパをさらに活発に！！各支部各会員諸氏へ訴え」「中国殉難烈士の遺骨送還事業をめぐる最近の情勢について訴える」など、中帰連の枠を越えた平和への取り組みが紹介されています。静岡支部の根上民夫が「日中友好協会熱海支部結成に伴う最近の経験について」の中で示した感慨は印象深いものです。根上は、県連の事務局長から支部の結成準備を突然依頼され、「びっくりしてしまいました」。ただ、「考えたことは、如何に私自身がなるべく受動的に、自己個人の中にとじこもって安逸をむさぼろうとしても、私たち中連会員に対する社会の要求はそんななまぬるいものでは決してないということでした」。とはいえ、他の準備メンバーは「どうせ代表団で〔中国に〕行って来た人でも極く短い期間であるし、日中友好といってもそんなに積極的であると思っていなかったのが」、予期せぬ積極性を目の当たりにし、「尊敬の気持をもつと同時に」強い刺激を受けます。「寛大政策を受けてきた私たちがどうしてあんかんとして自分の生活だけにきゅうきゅうとしていてよいだろうかという教訓を得」、仲間の「活動をみて、山をも押し倒す勢いで躍進を続ける偉大な新中国の現実は、なんと人々を教育する強大な力をもっているかということを今更ながら痛感し」たといいます。認罪や反省が、帰国後の幅広い仲間との交流のなかで持続できていたことが窺えます。

## 「記念館」の経緯と近況について

1000 人余の戦犯（中帰連）が「管理所」で人道的に扱われ殆どが起訴免除とされ、起訴されたのは僅か 45 人、その中に一人の死刑も無期も無かったことなどは、既にご存じと思います。今回は記念館の経緯や近況についてお伝えしたいと思います。

【「中帰連」解散式 2002 年 4 月】

中帰連は高齢のため 2002 年 4 月に解散しました。その翌日に、それまで「賛助会員」として参加していた私たちなどが、彼らの思いや意志を受け継ごうと、「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」を立上げました。

その後、多くの皆様の協力で北海道から九州まで 11 の支部が立ち上がりました。「受け継ぐ会」の主な活動は、当時まだご健在だった中帰連の皆さんへの聴き取りや、証言集会の開催などが主でした。

その後、中帰連の皆様が亡くなるとご遺族が彼らの資料を処分してしまう傾向が見られました。私たちは戦争体験者ではなく、その資料を使って後世に伝えなくてはなりません。そこで、彼らの資料の散逸を防ぐため収集し、彼らの体験を後世に伝えると共に、必用な方にその資料を提供をする目的で 2006 年 11 月 3 日に「受け継ぐ会」とは別組織のＮＰＯとしてこの記念館を立上げました。

この土地と中古のプレハブ小屋は全国の中帰連の皆さんが「カンパ」を集め買って下さ

り家賃や地代の支払いもなく、この場所が無ければこの運動は出来ませんでした。

お陰様で2016年11月にウェスタ川越で「10周年集会」を盛大に開くことができ、メディアも報道してくれました。

中帰連平和記念館 10周年

語り継ぐ 加害の歴史

中国人虐殺 元戦犯者の手記など5万点

【「10周年集会」報道】

記念館はこの14年間、一切の公的補助は受けず、すべて全国のご理解ご支援下さる皆様からの「会費とカンパ」のみに支えられて運営できたことに、改めて心より御礼と感謝申上げます。

運営は15人の理事と2人の監事が年4回の理事会を開き、普段の事務作業と来館者の対応などは芹沢事務局長と司書の宮本の二人で対応しています。

『会報』は年4回発行し、また年3，4回「中帰連に学ぶ会」と称した学習勉強会（メール通知）もしており、開館日は原則（水、土、日）です。

来館者は一般市民や市民団体の他、海外メディアの中国中央ＴＶ（CCTV）や香港フェニックスＴＶも来館しています。またＮＨＫ-ＢＳで再々放送されギャラクシー大賞や放送文化賞を受賞した『認罪 中国・撫順戦犯管理所の6年』（110分）には記念館でも資料提供しエンドロールに名前を入れてくれました。内外の研究者も来館し、帰国後それぞれ「英語、独語、ハングル」などで中帰連を紹介する本を出版下し寄贈を受けています。

【記念館「閲覧室」】

これからも私たちは憲法前文にある『平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した』を信じ運動を続けます。

皆様からの激励のお手紙や、振込用紙へのメモ書きに励まされております。今後ともご支援のほど宜しくお願い申上げます。

## 千葉のケーブルＴＶ局来館

千葉県内15市町村に配信している「ケーブルネット296」の飯盛水月記者が8月9日、カメラマンを同行し、中帰連の金子安次さんの資料を求めて来館しました。

千葉県在住の北川直美さんらが編集出版した『1945 ← 2015 若者から若者への手紙』を取り上げたもので、『戦後75年４Ｋドキュメンタリー』というタイトルの30分番組で8月17日に放送されました。後日その「ＤＶＤ」が届きました。内容は「如何に若者に戦争を伝えるか」がテーマです。

記念館が少しずつ知られ後世に伝えると共に、その資料提供にも役に立てることを嬉しく思います。

これも会員やご支援下さる皆様のお陰であり感謝申上げます。

## 新たに理事、監事が就任

冒頭の「総会報告」でお伝えした通り、6月の総会で東京都立大学の石川求教授と、大阪大学大学院で学ぶ山本潤子さんが新たに理事に就任しました。

石川先生は中帰連解散前から中帰連と関わり、中帰連神奈川支部の絵鳩毅さん（故人）とも共通の「哲学」でお付き合いがありました。

また山本さんは大阪大学大学院に社会人入学し、中帰連福島支部の大槻市郎さん（故人）の研究をしています。大槻さんは地元に強制連行された中国人犠牲者の遺骨発掘を続けた方で、その状況は当時ＮＨＫの「新日本紀行」で放送されました。また監事に新たに元高校教師の中川寿子さんが就任し、記念館は理事15 人、監事 2 人の構成で運営しております。

### 「ねりま大泉町九の会」など来館

東京の練馬区で活動している「ねりま大泉町九条の会」皆さんなど 12 名が来館下さいました。ほとんどの方は初来館で 2 時間ほど滞在し、その後、東松山市の「丸木美術館」に向かいました。帰りには「カンパ」も戴き有り難うございました。

### 【一 枚 の 写 真】

335 名の釈放が決まった日の夜、管理所で開かれた送別の宴

1956 年 7 月、起訴された以外の皆さんが 3 組に分けて「起訴免除」を言い渡され管理所に戻ると、中庭に「宴席」が用意されていました。そこにはビールや食事が用意され、職員の皆さんが戦犯と手を握り肩を抱き、我がことのように「良かったですね！」と喜んでくれました。そして、天津・塘沽港では帰国の興安丸に手を振り見送ってくれました。

### 「山住文庫」について

「家永教科書訴訟」を共に闘った教育学者で都立大学総長だった山住正巳先生をご存じの方も多いと思います。

記念館には「山住文庫」と称した部屋があり、山住先生の蔵書を全て寄贈頂き保存しております。

これは初代理事長の仁木ふみ子が日教組本部の婦人部長をしていた関係で、ご遺族から寄贈戴きました。山住先生の教え子が来館すると「先生の本ここに在ったのか！」とビックリ！しています。関心のある方はご利用下さい。

### 【山 住 文 庫】

### 「方正友好交流の会」から合本寄贈

敗戦直前の 8 月 9 日ソ連参戦で政府高官や関東軍、731 部隊などは我先に逃げ出し残された開拓団は大きな犠牲を強いられました。

ソ満国境の開拓団はハルビンまで行けば関東軍が居ると信じて目指しました。しかし、ハルビン東方 120 キロの「方正（ほうまさ）」で、餓えと寒さと疫病などで 3000 人余りが犠牲になり仮埋葬されました。

その後、残留婦人の地元政府への「埋葬させて」との要望が周恩来にまで届きました。

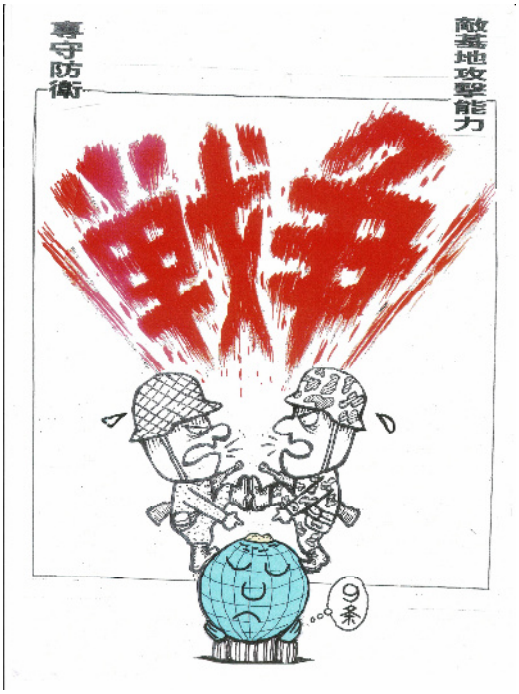
周恩来は「中国政府がやらせてもらいます」と『方正地区日本人公墓』を建立してくれました。隣には『中国人養父母公墓』と、『麻山地区日本人公墓』も建っています。

現地と交流している「方正友好交流の会」の『会報』が毎号届いていますが、今回改めてその「合本」が寄贈されました。

他にも記念館には友好団体から送られてくる『会報』を公開展示しています。

【方正地区日本人公墓】

橋本勝の風刺マンガ

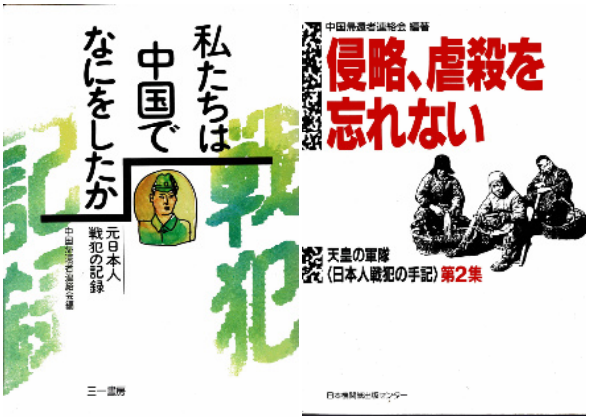



政府・自民党は「敵基地攻撃能力」と言い出しました。太平洋戦争は正に真珠湾の「敵基地攻撃」で始まったのです。日中戦争は「満鉄爆破」の自作自演で、ベトナム戦争は「トンキン湾事件」で、そしてイラク戦争は「大量破壊兵器」のウソで始めたのです。戦争は全て「自衛」の名において始めるのです。

記念館「蔵書紹介」

下記の 2 冊は何れも「中帰連」が編集した本です。左は 1987 年（三一書房）、右は 1989 年（日本機関紙出版センター）です。

所謂「三光作戦」（焼き尽くし、殺し尽くし、奪い尽くし）など、多くの虐殺体験などを証言しています。




「会費」振込について

会費以外に「カンパ」を下さる方もおり、会報には毎回「振込用紙」を同封させて戴いております。

その度に振込んで下さる方もおりますが、会費は「年会費」で会員の皆様には会報をお送りする封筒に「会費〇〇年度迄済み」と記載してあります。尚、振込用紙の□には必ず「レ」の記入をお願い致します。

『NPO 中帰連平和記念館』
〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6
TEL&FAX：０４９－２３６－４７１１
E-mail：npo-kinenkan@nifty.com
ＨＰ：http://npo-chuukiren.jimdo.com/
ＭＬ：npo-kinenkan@freeml.com
郵便振込口座名「NPO 中帰連平和記念館」
振込口座　：００１５０－６－３１５９１８
開館日：「水、土、日」（10:30 ～ 16:30）
（ご来館はなるべく事前にご連絡下さい）